菊壽堂編

へ13
3246
3

門へ13
號3246
帙3

菊書 巻 三編

○大江二条殿の院○田ぶるまや半分清二条殿の東のあるじまもる所よ
ゆくそくの物ぶるーまのちぐしもあるまじくあれいとふぐ物ぐ新百
ぶれぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ所ぐ
明ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ
日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ
ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日ぐ日

れをるよくこまぐれでそてもしつこくるけ少藤だこくこるでう
られて来のぐ〳〵そんるこう半三〳〵祖けは娘ばそんじてごぐの弟〳〵今サ
をつくとるだんぐ〳〵少藤よきくこらとるあれバ〳〵そんるこ少ぐこるへ
こしあり〳〵あつれ中セトさきやめこせ〳〵ぐこだふ半そん三清こへとひそめ
ぐこ少藤はの清のちご白菊祖こいこう〳〵牙とるげときくこそそふいき
てとるのもぐそんもこぐそれハなれいつぐやセちのご清よそ四ヶ月〳〵ぐび
ハのるこうこぐくこれと達さこ中れこくこ白菊ぐこびそふぐこうぐこれく
三こくこんとるれ〳〵の毋ちのれ〳〵けは半三清ヨんれバそふぐとみれよ
ちくとあるせ〳〵娘もあつくこそれくこまるるく今ここで牙とこうこ見こ
いぐあこんれるハぐこうぐや祖ぐそこんを神まく牙とるげて今

るぐこへ少つのこ少娘ごこちとあこせそ七のご清こぐとぬそんぐこあ
百毋ちんまだ毋これてこへこうれこ牙のこ毋あれ半せハ半祖ぐ
こうこれこよ牙こるこ高こハまるのあ毋ちんけこうこるぐこへ毋ちこう
バあのぐこうくこるまこ毋のこもあこうぐ半こそんるこまこの毋ちぐ
ハるこうこそれぐこあこ牙とるげてこうこ三これのこるこだ
ぬこへの白菊祖こうこるぐ〳〵こそんこうこ半三清ちん白菊祖
ハぬすんぐやぐこんせあぐへこれあこふぐこぐこのいん祖へあこへ藤
東のむこ高祖のこ達こ対祖こあこへこるこつけねこ半こくこるんこふ
白菊祖こ中こハむこ高祖のこ達こ中こ達こ中こぬるここせひもねへぬ
ぐこんぐあぐこハるんここへこ半こるんのこるこ白菊祖ハいここけよこぐん

はらるる事ハ[ナシ]ゆゑなくびよ達てゝ[ナシ]ゐる事れよハ[ナシ]それゞゐる事それ事ふ
くわけのあるとゝ[ナシ]いる程ゆゑ[ナシ]あれいまそこゞゐいめでゝ[ナシ]ゐくとゝ
そう仕事を情ハむて白菊殿の出立むす事殿のごらうそるれ
杉の戸殿よつてめくあゞる[ナシ]事のあまへ[ナシ]が[ナシ]ヨサそれ母へ白菊殿殿
殿の公達それとたゝてゝ仕事月毛殿のうものあるゞとそれな
分てもそゞまとの文無い[ナシ]外でもるゞ文ハそれ杉の戸母ハいや
しきとゝゞ[ナシ]祖父へゞゞ女中よてゞゝ事殿のてめ世るの
てまへ宿でゝうまてちゞゞ氏星子まとまて女中ハびやそーやしわ
るゞ杉の戸殿のお嬢ゞであゝゝゞ仕事を情ゞあるまゞゞ母ゞんな
ゞよゞあらう殿るゞハあ乳やめゝゝるかゞゞれあそゞちらあるそゞるる

よるゝけるゞ今の出身あ事ゝあるゝ事を情ゞあるそゝゞ中氏伊の母
仕事を情ゝあまゝせゝゞ杉の戸殿のお嬢ゞゞやとゞトゝるゝゝず
人ゝあ伊へあるゞ親子殿の出家のけゞれやとれまつけてもあそゝを
しゝ女中と咲ゞて杉の戸殿ハむゝ事殿ゞゝるゝあ母へ
しれゞゞごゝんてゝるゝ小藤殿トゝるそゞめゞくハ小藤ハゞゝりくむゝ
るゝコリヤ[ナシ]あゝへゞゝるゞひそゝゝゝくゞ杉ゝ事を情ゞあゝまれるゞゝち
のゝ天ゞゝへ[ナシ]ゝ事の[ナシ]殿殿殿ゝあゝへ[ナシ]の[ナシ]ゝれあゝ大阪へいゝゝゝ氏殿
とゝゝてゝゝれゝ氏殿のそばとゝゝるれるゝとあゝみゝんゞあゝゝゝ
まゝゝせ[ナシ]今ゝへゝゝゝあゝちへいゝとくまゝてあれコリヤうまい和ゝんゝくハ
ゞるゞ[ナシ]ゝゝゝあゝゝるゞゝゝゞゞゝい弁ゝゝそゝあゝゝの母ま

せてねむてるてトクての月（いでもくとれちがてゆそてる
この下女ちの私ちのの永第びあるもてもてのけり。半ちの
あるどよ向ひ時ちきちうみむんがあるがきてちるまいうこいの
らもてとあしやゆ身ちるてるべイヤちてのひて
けどで抱ぐんのでちるとかでもるひけ少藤とるてちれある
うが少藤とヨサぞてんれかてるようてくの親ちちせるがぞん身
たてて今身うけとしませうトちてあるがうてかとあしやり
弁ちあ書とうてどきませう（イヤサ）ちんちてあれて少藤五千あで
かれてあるのよ五千あの利とけて百あで身うけませう
ちてるがうち年ちのせどせてちまの涙もあらうがちてが教

ちのがもんちらびゆちてちて百あこしけ毎のトどうまち
よりどうち手て百あてをあるが少びとうもけちそしあん
のてちしと半ちあるがひどとたてこサまがるれぬのど
の嘗外ねとどすやらだちまのあら咲のれぬちんちのいる千あ
ちて今月のまの涙ぶん（ちた）いたちどや身とかまのせう（ちんく
○田ちあやの涙○田ちう五ちよりちちあ（四）ちこ少ちる半ちあ男だてぶあちて
どやの（十三）れどてどぶん見ちう（ちてちんすでどぶんせうトちるちよりが
のせうとあけ（二十）あちちん長ちうてのまちてちたてどてあて
こちのいあでちうの（二十八）ちくい嬉あちてあちちあてのら長れ
弁（二十九）ハテナ嬉ちくれであらうこしちちの（三十）ちのま

せぬが如くゆく〳〵見物がつゞいてゆくのせてゆきこりやきとうけまし
ヨモとゝゆとゝゆく用ゐるいてゆきやイヤこゝとゝゆくんあるゝゆあ
ゝとゝゆれはせぬゝいゝきゆゆとゝゆくゝト乗のつゆゝそのゝけり
やあつゝくゝの赤ゝ半兵衛がいつゝるゝ酒ゝゝどん三ゝこちのん
いゝゝゝあゝゝゝゝでいあるイヤゝゝ大役でむりゝゝちゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝイでめんゝゝゆゝでゆゝゝゝんゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝゝ

してとくさんのおぞうさまあらせハてゑ婦ゆうしてゐると
いふものあまりの用てこゝろ乱ちゑさんごあゆゑ引てゝのそ
ばくへのゝしぬるあるべさうん今まものもやゝてゐるうそ
れぬるむものゆえまるうもるくらゝているけゆいるそれより
たゆんうけてゞうりるとくさん親とあやるこうねば自分ゆ
ん俗ゞるひ分うけさゝん出とハきこくへぬゝきこくへぬいるうけ
うけハ新ゝゞさせぬどこゆゆでもゞやゆるうこそゞやけ出ゑう
ゆんとくさん（トたうんとさるゝと半兵衛引とめ（ゆ）こまつうこれ見
まハゞんゝけのあるこ（ゆ）こ出ゝぬゝトふりるたりこゞうるゆ
さゝゞ半兵衛のゝこゞ不ぴつ出ゆり半兵衛むつこゝうと立ゆいるゞ

えうゞびこうてひゝ出くるけ物ゆこうる因たうけ出りゆいるゝこゞ
半兵衛とねめけ（四）行ゆのゆこいているゞゆゆハ清ゆつこるて
ゆ引ゝ（ゆ）出ゝうゆん大まいゆて自ゆ如郎分うけ出るこハ出ゝうる
つゞ出てゝこゝゞのゝそんゆつこハ見ひゆうゝず正ゞる物ゝゞ
しゆ（ゆ）おて自ゆの文郎ゆ（ゆ）自ゞゆちゞゝて出ゝくゝん大ゝて
して半年ゆたつゝこるぬゝくゝ自ゞゆひこるゝけこてゝゞゝこんゞゆうまゝ
ハちゞゝて出いるゞゝん切いつこるゆ姫ゝゆするさる状ゆて出てうせゝ自こ
るゆ今ゝゝいゝトゆいゆるゆこゞのひこゝゝこゝるゆ形ゆめハ半兵衛ハゝ
みゝゆこゝ有（ゆ）ゞんゝゝのゆこゝこゝ立ゞゆつゝゆゝゝゞくゆゝとゞゝ（ゆ）ゝゆこゞ
ゝゝるゞゝ有ゝうけ物ゝゝ小藤ゝゆゝゝハ新ゝゞ出ゆゞんの姫ゝ出ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まで人の山をとるとてこるひが行るを付る種のために
ひとりくは金銀を見せとゞ〜今のゝんたゝ〜あぢをこゝろとゝべ
ゝのおりげをゝゝといふい業門であてらぬ〜むを言ゝのう
ゝをせるひ〜ゝゝとゝるら詐でゝゝゝ家の宝とひめおゝゝら
ゐおゝゝく人をまゝるゝゝをゝゝはけゝんのせんべんゝゝゝてあるむを
言ゝゝゝゝら影の氏神のどゝゝせんゝゝ氏神よごゝんのおゝゝゝ
とゝゝゝゝ振〜ゝゝの氏神のおひゝゝあらせ縄げるゝんの小藤どの
とゝゝ〜ゝゝけ〜ゝゝのハけ田ゝゝゝ〜ゝゝゝゝ〜ゝゝゝゝ〜ゝゝゝ
でゐるゝゝの〜ゝれゞでゞぶん氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝ氏ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しくおぼしていかがでござんせうぞいうたもの少藤はとう
てもうれしくておつれはもうれしまものぞやるんでそ
みやげとうらうてもらうてもきやーまとうのさーづる少藤ぐさうく
とうの〳〵ちんとうるおる〳〵も小藤ぐまうあ〳〵ゐ〳〵でめんらぬれまーいふ
與小藤ぐ見てびつくりおるこでぐんぐんこ行くよこでお
いさん用ぐあるこうあのーいーとーの中の百ぐめんあるくのさくこの部
るこうぐ来ぐ居ぐでこぐざい弟ぐいうもそるこは小藤ぐ〳〵ゐ〳〵あで
でぐざい弟ぐそれい拾こそおんまいうもうませぬ時ぐ来云
ぐ居ぐこん小藤ぐ大後ぐ〳〵づめ〳〵ぐは付ぐ嫁の方いろいまこぐ親子
のえんいきうませぬぞ〳〵るんぐ今金のひろうぐやこそ親のあるを

姫ぐ方ぐけ去るぐ〳〵を親〳〵るせおさうーれぬいうぐはのつも
ぐやこぐこと方ぐきこるでるるくタ〳〵ぐ方ぐの想ぐ
おふこう親〳〵ぐこうと方ぐこけ来ぐ居ぐぐるぐ小藤ぐつれ
てこるこの部〳〵今出ぐけるおぐやーふ小ぐるとまるぐ合い〳〵ば小ぐるを
うこるぐきぐれぐるる今下おーてでちぐふ下ぐどよいおうこぐやと
きこておうこふ大きるぐとちぐきぐづめ〳〵ヨうこくこうぐでこぐざいまり
さうたこるんぐでこうりつくおぐ方ぐけぐといるる小ぐるぐ姫おんぐ方ぐけ
るせんここつここるふぐきこくとんぐこ後縁面ぐ五百疋〳〵こ姫
さんこりやおのこぐ方ぐけぐ弟ぐでぐざんぐといるこぐこうく昆ぐ小藤
のおぐけぐ〳〵ヨやこトむるきこん拾ぐこうこちぐふこる百疋〳〵姫弟こ

さんいたるまでのるいあんどやりや外のたるまでもこませぬいもで
ござるこるさんたるハは小藤とまつよつてまつまでまつとおもの身づる
といのどやそのやうるせるもたるこるとつてあまだるぬ初物とかづ
るる利つけてかいあるこ出形円さんの妹ぶんよめまるるとく
金どもこむけても金ようるかんようづこの身うけでるけの親
も浦ん女房もがつてんまでるけれバ身ようの小藤を伴ようば
は図引ようてあこうづハねあるこ一つ、あつこるトこうて半三清む
つこて可こくかんこうこの身ようハは思ひまやへきづと分るる邦
つけるもくしてるこうづと分こ見せんせうそのやうどうてうて
きづと分るのどやトあトまるるでごゲて見てるまうづひと見へれ

ハこへひつこの半三清小藤のもどめるうでんびるるりてこうて下
さりませ可やこるるこぬ行ものへよはこうづ行ものへるるはね小藤と
こうるものようこうるこうるこうる

まつ山かけにたつてゝやるぶ[ヤ]ゝといつてあんまりみらぬてらく
のふもとも殺げみちのるる[ル]ゝ行くぐふ[ク]ゝ引てるまてるんとせうちある
のるんのてんあぐてまんぐゝしに合とるたてを[ヲ]やゝと親のぐん
そうちややるるとんのびとつてたてをねぢつけでぐうすのむ
ねすゝ小ゝるいそせゝおゝとめ半ゝこぶゝとぐゝいちやぐんの娘
と国のまへでおくゝられてむねんもあといふ形よせんかるぐゝ口
とゝるぐゝそゝゝく小ぐんのつぶておくゝぐゝふぐゝくゝとと
百姓つゝのふゝきれてふちちゝる山ぶ[ブ]多おくゝ白とゝゝ
ゝとゝどつゝ石とるびつゝ石と国をあくひぐゝ六七百姓ゝくゝを
おどゝくゝゝ石のつぶてゝけ国ゝゝいちやもいそんもるゝ形ゝ百姓

でゝのふゝきゝゝ親子のゝそんゝきゝゝ小藤ぐ[グ]あゝんゝやいやゝゝいれ
まゝいとゝきゝておくゝふゝゝゝ引ゝゝゝちやゝるゝらぬ不ゝさゝゝゝ田ぢゝ
やの大豆船ゝいゝてひゝふゝゝてく奥半ゝ清ゝ小藤ゝ女ゝ子ゝとゝあゝ
半ゝみぐゝゝ親ぢ[ヂ]見[ケン]ゝ見ゝある山ぶ[ブ]の牙[ガ]ゝあゝくゝぬまゝ女の
そんゝきゝくゝるひゝと杖[ヅエ]ゝつゆ[ユ]のこぐゝるゝみぐゝくゝるゝぐゝ田ゝゝゝ打
ゝゝぐゝきゝ引ゝゝくゝぐ今のゝゝぐゝそゝぐゝひゝるゝねゝのゝめゝとゝゝゝゝゝゝ半
ゝ清ゝゝ月ゝとゝゝくゝけゝト栗ゝのゝひゝとゝまゝゝゝゝりゝゝおゝくゝゝゝむゝひゝ
とゝて半ゝゝ清ゝゝゝゝゝゝ門ゝゝゝゝゝてゝつゝあぐゝんゝゝ一百姓ゝと手ゝぐゝゝゝよゝゝて
ゝゝゝゝゝんゝとゝゝゝゝるゝと半ゝゝ清ゝゝゝゝゝけ[ケ]ゝゝゝゝゝゝ

ぞうづくめの。あんどの底。茅のいろりも秋ふけて尾花かるゝ。ぞ
のゝよもぎのもとゝ。みゝとでたゝくきんぞうの籠ごもそうぬあん
みゝとうもけて。ハテ。ちゝ。ゆのの白べ。の。ものとゝんぜませうト
ぞんぜのせうるんぞ。さゝぐ。ゝ。ゝ。ゝ

とゞめけり。濱ちゞ家の娘。あるちゞ家の乳ぞくして日ゆくまゝに形の
下男のひんをこしみよいつぞやちゞ屋で白菊ゆゞこびとぬすまれ
親方とちゞどつて今でハそんの者ゝ一とゝみでしてぬすんでもつて
ゐるさうでやそのゆやくもらくれるといふものゝされるあの時ゝ
ゆゞのゝくちゝちゝとそゝる娘のつゝたゞいをそゝているゆへよせば
ゝこのゆゞでゝのゆゝのぞけゞとそんとそゝひぬ今ゝくらゝゞやゝ
いゝと此ゝ此ゝ小藤ゝとゝるゝゝ小藤ゝとゝるゝゝてゆゆゝんゝ形ゝゝんゝそゝゝ
ゆゝとゝゝゝゝゝゝのひんゝゝゝゝゝゝ

こうごぞり鉢せめて弓名でも牙先い名もあるらう人物てまぐろ
ぞるいそぐしよ（ぞ）みぐたびあんぐーだぐーで仏のぴくすけ苦物や
小藤と多とひけばさいぜんにけば少ぞうの三太さんいそのでにぐ夢
さらけいらう人物い名とあるのてうくるくんとせーあ〜えに少義ぐ物と
せーまめいぶくろまよ名ふておくへーこりや（ぞ）ぶしそぶん（あるさて）弱
みくがてんもうぞトひめとくとく名いぐせーくそのまるそくるつ
うひくるくて志のう久二年さの三月三の日三のそくんぐう
物ぞくの名あるつ（ぞ）やくコリやこしまくくぞ牙先ぐーもせるくそんるくう今
のい牙さぐ鳴てあてくるぐとあるくハ方くまいうそうどやーもうんと
しくるうくるいぜんのひんぐ右ひぐう（の）今のいもぶんくらトうくて

かるとう牙のしくくさくくとぬるう牙のむくおるあそれてみもい家
くるくらう人まめのとる名いぐーー（ぞ）ひぐけるくさけまめいの牙の天と定
うるくぞぞるるトさあんのむくもれかるるぬのうくぞとんくく田鳴やの
嗚〇日見くや面人ぐりくくどくもせくーくやくうりぐうりくん
町くくくくくるあうくくにあるくる中の名に米三人ぐ書のふいるく
るくくくるくるくとくぐ出るれくくトぐ女ぐ（ト女）中しあるくる出けれぐの女中ぐ引
こくくてかるの時くくこいハ始げでぐぐの鉢ト菓子のふくうくとハ才人
のせくくくーだー（ぞ）ぐくくもくぐぐくくらアれ（名）ハりくトくくりもいひくくくるあ物
しのお名くて年ハ四十と二四三ひ程ふけくる年ぐけにぬけめる
る家に多と名て（ト）くくるくうくるのませうくとぐんじまくたぐ行やらあぐ

くわそう物まつる（ゆうやあそうもろ）ろて見そ人（の内けいそんのそ）ぢに
ろけばいぜんい家けあるまこーゆるこそうぢ母ゆるとちぐふて所か
ハ何ろこクてもちぐふでおろはれぐもいあるあ所ーぐ姉の山ふぢ口の
川ぐらそとあ〳〵に形むそる母の世ぐもあれど当年ろ形びれふハ
よけれせそのいぐも以ん人ろせまばるそ所ぬそよるそも形むぐやゆいく
ふらるくそもさやちりめんの三ぬ川むそびれれ月女のちるれ立
まりのもそてーハ芸ん人て形弗るそ所ぐりるぐ〳〵あ今てこ母せう
（ゆうや）まハ何ふりさすぐハ家けとてるめるぐだけ形ぬーいそぐハあるそれハば
年も作てあるそんぐあるこ〳〵ハるそもそも人ま家ーてるれこい小藤
こそ今ぐや芸ハあ石こそ以ぐぐや姓〳〵こそ人ものぐそぐてるあ

じゃぐや（ゆうや）そうぐぐぐ絲ろ何のそ形むぐやゆいく石石ーるれ
てろるてくしあろまれぐもれあ同ろけられ形てるろまれ世ト同ろ芸所そ
ぬ何ろるくれ形ろるそぐそこ人るけるるれ形ろこのるれ仁母の四ろ芸者
母のけるぐ母のせのりろ芸ぬまそぐのの中ろ芸ハれ芸ろ芸親子立
ぬそ（ゆうや）こいく母ろせ母根こそ芸ぐまるこ形（ゆうやあるまぐあるこん
ぐん芸ハ外ぐあるいこりやそれるのるこ（ゆうや）けるぐ芸用のるる芸（ゆうや）
ハ芸ト芸ろ人て芸ろそうぐるもれ芸ろ芸年西芸母ろ芸母ろぐまる
れ芸もれ芸ぬ芸形ぬ芸ぬ芸ぬ芸

しんぜるのじや金子ハとくとあらためて
出そぶるあひつぐやそやあそしのり絵ぐつ屋よりあがるで下さる
といひつこう出そうて呼ぶーぐくコリや中ぶ清あれもせけ後ハあさつ
ク日でぐら絵まひぐ8ーやは月のあぐるん内でもうそくぶ月とつと
めのせうそぐらうるぐーぶせんらそうあるるーと元やーぶ絵ハ
つとの西り扇ぐーぶ西やそくーとけーてさるハーとぶれぬ千やも
みぐぐーぐらでぐら絵ぐーぶ清あーうーと千やの日中ぶ清月が
ーくまのぐ出さんーれぶーぐあひうん田千やそーぐんハかうん町そて
筆めーぐらるるれぶあひやぶーぐるあまんあーて出ぶ西ぶ中ぶ清ぶお
くの絵ぶーぐあんるぐ千ハかぐーけるいあり合の絵ぶるれぐーぐ中

そふ出ぶーぐあれんと中ぶ清ハ西ぶの産ぶとるぐーれの。れーぐーぶせ
まいらうんぶらーぶーぶむーぐふうる変ーぐーぶーぶーぐーぶのたふとが
ぐく懸中よりてーぐーぶぐーー少ぐーうるれーぐーせぐぐんぐうひーぐーぶそて
ぐーぐーぐやーぐーの中ぶ紙あるーふハ西ぶ中ぶーぶーぶれ絵
ぶーぐーーいーぐーの中ぶでーぐるとハ絵ぶーれーぐーぶ大小絵ぐう
ーぐーぐて中ぐーいう種あーうーぶるーのぐや中金子世西ーうーぐれーぐたふるる
中ハ絵あるめい絵りのろ月ぶーつまーうーんれるーぐめい絵ぐる絵ーぐ
ーぶの月ハーるのませぬーあーぶーあハるなれーこぶ天絵ハ絵ーんで
ーとふれーぐれーぶ中ぶーぐーぶーぐーぶーぐー

どうせもうに門づくしさるしだいでごぞうの外おもうにはそうのるべき門
ぞうけふめはせぬやまてせ門ゐのよ門ゐに芝人
おるとうぞてんもうずいいれて中をこうらすをびつりぎをうそん
やくあるこはむらの中ものんそうるれ松のをはさふおのれ
百後るを中をこうでいるのうおうをんれもるくみてこいさうそうるべう
おうのうこびせやすらいはお嬢子今のお彩は少藤はもへおうてまうあの
そんとるをうの彩てかおうくまびやまうこ何いなをのれこうそう
ちうむうるうぬそちびせうつまうをうけてるふべるをんうべを
とうをしらずこうを中うをうをうせまうあれへのあんるいを中ト
中を侍ぶうをうてをるるいけれバ松のをはせをるうを中のぜんうをうのか

ひうをけのれんとうのるけ者弥とうとうをうてせをるのたい長賀
をうをうをるべうこんべ出べうべうをうをいい。中を博松のををとうをうへをるをべ小
藤をあうせひうしをを松べうをけれバ松のをををうをけるをうをとうをうり
をうとうをうて親子のをんの外べをるをのべををを少をるをを礼
をのべけれバ小藤はをををうもべ妙あんをををうをををうをうり
をうのををうをうれ一親をを初めてをうをうれしををうるをを親子のを
のりを松べをうを白菊松べをうをうをのをををを中ををををけべを
をををうのをををけをを引をを中をうをうをうをのをを石をべををををををを
しべをををうあんのををうをべをををををを

あ（コリヤ）を松つくよむ（ぐ）いつぐ（ぐ）ゆ（ぐ）むりこんや八幸しん所の業め
人ゝのふけいにくいるぐゝまぐ五のそうぬおいゆむり正るとだう
しゝゆ（ぐ）やコリヤ三天を（ぐ）のうんてゝ湿とうけうを八利命札のつゝけ
五に中ぐゝ人ゝまゝ一ゆれトゝそうぐんと達程す○おのてのすに
いぐ（ぐ）う図のけの利ゆどに（ぐ）にあるゝせゝ二千八けの図うけ婆
四ぐ（ぐ）ゆゝけ（ぐ）の影名とゝ見ておうるゝぐゝなぐ（ぐ）むゝぐゝよ八にあ
けゝせゝ入れバ雑とうふ（ん）る島ゝゝ（ぐ）どゝゝ（ぐ）ぐゝ足でごぐゝ鉢の
ゝ（ち）八田ゝ入ゝ多ゝ用ゝあつてまいり利宿にゝ（ち）ゝ（ち）ゝ（ち）ゝ（ち）ゝ（コリヤ）
なの利ゝゝ生ゝゝ見ゝて（ち）トまゝ（ち）ゝ人ゝの生ゝゝ（ち）ゝ出ゝゝ（ち）ゝ友の利いゝ
ぜんの生ゝ結てあれコリヤゝゝ利ぜ生利栗人ゝ生ゝ（ち）ゝ人ゝ利ゝ

くゝ（ち）ゝるゝト云ゝん（ち）ゝあゝゝ生ゝゝ生ゝゝ生ゝゝ人ゝぐゝとゝいゝりゝつゝゝる生ゝ生ゝ隠バ
とゝぐゝむゝる利のなくあつけにゝゝゝ（ち）ゝれていゝりけりゝ利ゝゝゝ少ゝゝ伸の図
にゝれとゝゝるゝのゝふゝん奥（ち）ゝなゝゝ（ち）ゝゝ足ゝつゝゝゝるゝ出ゝぬゝ利ゝ生ゝ足
ゝ（ち）ゝふゝんゝ八ゝつゝゝ生ゝ清にあゝゝゝゝ利ゝゝゝ利ゝゝ足ゝ田ゝ生ゝ図に
も利ゝあゝるゝト根ゝゝゝばゝゝゝゝゝのゝゝゝぐ（ち）ゝゝゝ人ゝトゝ月ゝの図ゝゝ生ゝ
利ゝ一ゝ生ゝゝゝゝゝ人ゝの入ゝゝ生ゝゝゝゝゝ

・ふる雨中のふてゝ氏うゝハりや女房じゃやゆるまいぐトいられてるんと
めんぐくゆくゆくるも身とそもむけけりの半生人さゝ（ま）ゝそゝぐ立ハもつ
とるもぐゝたゝつてのあてりけわけ合にてゆきづゝめにやそゝてゆ
しのんゞのり物にのせてゆきくるゝ咲ハたくるいつりいづゝ生ゝか
ゆくゝれず女房てんりゆくゝりとゝれ振るゆしきゆゝくゝと君ゝが
さゝにゝれぢけゝあゝてゝ氏ぐゝるゆ月日ふゝてゆゝそけゆくるハりゝそ
ゝるかけありてばゆゝ来りゝ文帰ゆりゝ文つゝるゆけれハまゝつぐる
そ婆れるゝゝのあゝづゝめているぢゝこれゝ婆ゝそゝゝたひり
るぐゝな世生ゝゝとゝるゆぐゝりてみつゝゝゝゝそゝるぬのゝやゝそゝゝぬる
トゝゝゝゝゝいゝりゝゝゝゝみゝとゝゝていけれバあ代（ち）ゝそゝゝゝみゆゝゝる
るぐゝ

ゝれられゝ生ゝゝそ咲ハゆゝの井ゆゝそゝゝものゆあゆぐゝ少の山ゆゝにゝゝる
ゆぶゝくゝれ星ゝ要ゝ見ゆゝゆあゝんぐゝんちゝぐゝれゝゝゝゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
けてゝゝゆゝぐゝゝそゝゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

・文武のくらゐそなはりし時の姫とうぎゝ姫とうぎゝ姫とうぎゝ

・ゆだんもせずそこらをふるいたもうものの名のふさわしけゆさんと立てよる
ものをふることあるべしゆきのりいづる田たちの姫のおもひ人とてさんあるつ
しうこどもら絵ト立つるをそれば清びつの田たちの中代にむて
二月いぜんこせの年代小六かまるの名八清千郎とて元六ら時代の
ごけらこ御碁のよう時代の西人なる云清千ことしげづくる陰岩ふ
だにそつけられしげ目ごろうくるをうくぬ西人にふぞ物ことふ
れちらこもるつ清千ちの西人中ちにおいて志ばりふびときらまりに
西人わうて命こすうり清千ぶいあそうづぶ御碁とかいて中ちと名
とうこ西人年ひ清千ことしゆそいたは田たちつうてしずたつぶいる
間にぶんとう廣人げかるだってそに清千ぶぬ西人のおくそうけか

碁とつれて仲中に出るうげ志ちんどらいるこるゆくへしれぶるこまび
いるるるるけびたるもちあるつはどそうつれてきて下ちりかし
こいるはふんいかつるそうあけとうたらうが時せばちちれぶるり
作者口上○此の初扁ゆつ西びうこ○扇おちるゆはけ西人御碁どのと
親人ーぐん用金手にいるこは田たちつ屋に用るるはけこは米云
一屋人ぶそ代げ人ーぶりの手親ぶげト懐中ーるふるるぶるこわるせ
ばまこ人ふるきとくひるるこそて御りゃ長菊秀豊但親のうるこ
のう時とおちぶぶんとの二味運ぶん長とおゆゆう手親ぶこは米
れこと二味のけつぶん御ぶるこんのぶ一味のけつぶん
ぶるちぶるれどまぶけつぶんいおこうトまいてゆどせ一味のれ

んぞんあるめをのと引こそ〳〵そるべきそくるる事を人にるべきのの女でこそあれば女の時はあ友せんとめつぞこるふるぎこそ世を引こ人をのこさてこれ百や世を情こさぐらくる所人のこりやるびに一味と形もいこそつもふこびきんぞんいトふこそこそ人のれんこあるを田をこ田をこそけつぞんいかがしませこそりや親ち拙ぐこ田をこそちぐ一味にこぐぬいば田をこをふぎらある親ぐあるあ人るこんい親ぐけつぞんにるこ〳〵ハをこの一味ハあるりまあ人ばこるにぐんあ金の多をひあ〳〵ばぐ〳〵ト人をんを一味のをでぐるぐこそけるあ田をこ田をこあんぐ一味のけつぞんハかぐ多人るあ拙ばけ〳〵ばあ人をのせあめをとトいふに親子ぐ法め

とまつぞんを4のをこをにをぐ〳〵しんぐさんト女のあ石をこまをこそでこるぐびある法〳〵それをも公つるぐ。あるまけつぞんあこるて宝こるこけるあ田をこ田をこ人をの今のこをこんハをるこてをこれをこいるこんを少こるぐのこさいぜんこ〳〵こるこるこにかせませね新ハ是こ〳〵これ〳〵ぐ山を山めこるこ世のこハすをこる山こハ世こ山のこと形こ年ぐ人〳〵こるこ〳〵ぐいをこあこぐハ拙こるぐ星〳〵あをこでトのこりませ宝こ〳〵ぐハ法きんあ〳〵ぐハト一味のこをこんふをここ〳〵の小んをこ法こるこ〳〵よのトト女のあ石ぐこぐ石にけんをこるこをあ人ハここをこ〳〵ぐこ〳〵こここ〳〵のこ〳〵ここあ〳〵〳〵ここのこ〳〵

いぐ法〳〵是こ〳〵をあここ〳〵中にあ是こ〳〵ばこ〳〵こ女ここ

よ時なのお百姓衆とゆびをめて岩ふぢでぐぐん見るのふとあて
て活くみびてらのもぐんとそそそ西岩藤ハ去てれーひぐとそそ
くーお蔓ぐそりてびひぐにおくくくもちるくるてけんとぬ
そそそ松いそにるおれハ岩ふぢじやひぢ岩由とゆをあらせる時
どのとるそそ和にせんとそそそんぐそりぐかれてうけおちたう
ぐ松ぐの下女をそびれんぐんハそそんのまかぐらば岩ふぢにれ
てーをれんやとあらばお蔓ハいもぐーまんぐん枝ハめのくゆぐ
らうさーそそうさそうおまるつんどんどうどやぐらのふとあそふて
きの岩ふぢが右に自ぐけん左りにれんぐんひぐの下ハハるく
おるつるんとせんそそるそそんくあるれそそるぐうそーぐるの

やそそそぐらうさーのぐそそ松のをそーぐそせおりぬくそもそせ
ぐ岩ふぢぐそーそりげさぐそうそりいそせそそりそびとそ〳〵てとめの力
れんぐんれんれとおちるにかそーー松のつびそるそーぬびのてぐあ岩
ふぢとをにそけハ蔓衆豊ハ〳〵時のそれれぐ牙のそハ
蔓衆にそそそ人蔓衆豊ハ白の蔓ハ親のそそのよ時ぐそれ
ゆとを蔓ぐのそけにて活ちさんトカそそにそそそんそそ〳〵れば
活くおそくそぐもるとおのけ分のけそぐにおやそるそれ
しのやしかれれよとそそけて立ちるれ仕丹のけぐ丹のせのの高松
のをにむぐ〳〵そそんれ町のちをに和そのとそそる丹のせのそのん
とぐぬちハのそそるぐだそれれぐ丹仕丹及ハかんれのを

めそれる岩ふちいさめぐのあくどあるゆへそあらひ洗手にめくめ
ぬれ女るれたるふてそのしれ物のもにあゆべきりすそそ
てたもんのいく物さるにようてい岩ふぢらびしーどのハ身をぐあるもく
ゆくびさそれバさぐんいゝぐろしのつそもあへせつぷくにハあゆび
ゆさぬをんどんそあこ二ほそあこ二ほそあこすそてでそきそるみれた親のか
そそのの親のーにうそんの所の男まい業まい男をまいまいまいをか
ーらあぶん親も男もひるのをそばかそまいかそまいぐそるいあ礼ハ海山
らぐとあそてアトぐぐーカとさかへあそまるそぐう苗礼とのへ
れバいそれ礼といるそるみくとふそらぐあそこあい猫のうらん
所あみそにそのそおいぬてあどのさいらいそこにはもあ枝のさけ

めの岩ふちがたぐらとゆへ物の親ドふそあくれバ四ドいどる清千
あのよハ清千ふゆそれ四そのあ長ハあ長ひさ
そのへ秋あのそのそばとそるれぬそに彩そ弟いそらもいる
ぐ岩根ふ物の小ふめぐそーやトいられて行ト清千ふめんぐくそばに
そへにそのの物ふハけふとよび岩ふちふぐいハ生ものへ下四
生ついくいちそぐらうんそきそめんそ生くけくびまれト生四ふり
やしく生ふへやりくむそぐあちつきあるどのそのひいたもへいる
くさくれ生ふへ久くぶの物そ明もありそるそゆるハそ
ぐるそそるいぐる物ハ弟まくはそ強とあつあ親
物の親ゆ書見それに縁ぐるはみるものあそにりくぬそ四に系

まゐりてくるゝ山うばさうぞくにて中ゐなるおぶこのふくを
ふさとれば[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

ぶぶ様の出産にのるものあるべきよみあるすりめ為もだしてあそびべど
りやでぜん〳〵トノ作なるべきにまづ陽やをもるの人べるものべと
をもるおりけるべきべ弟でんさしてのらにりおりうどべてきゝ嫁のを
を七ツにまいりをを親くハ女中しものをるめをうべるそれ小袖女中を
をべべくに菖蒲さんこもの〳〵ものをおもあひるを祖をひけんさそ杖や菖蒲ものを
じやおのしやトおべをるををめるもちをこりの弱をるの来る清をを〳〵嫁
のお稲年八六人の親の四女ハ陽べつ四人のをを〳〵お浴の女中がおるべにて
をべべををををにつはべをれをを〳〵せをに陽の市をを〳〵コしいくお稲
どのをををををぬかにををうるををををべやをべぜんちををををををさんをハおは
〳〵ものの和ものをををて行のをを和菖蒲コしいくをおをさ〳〵おをべりをうべべの年

おををれるべをををおをを祖をもををべんをふけのの稲家をめをべをべべり
年をべをべをを離のをのけんお産家にもるれまをべをやをををを新
ひや年ト年にハをおをぬいををのををを陽もをををんべけのめをを
るをををををを和ををりをお離のおの見べのををるれお稲にもを女中
をををのべをのをを〳〵を小の市のをべををめにを市波べをれををををを
ををべをを〳〵年をを思をのをを市波をを市波をを菖蒲
をハるをんをを思をををおの稲ををを〳〵年をををを市しをを〳〵をべ〳〵み
べをべををにをけ〳〵ををべ波にををを〳〵をを又をやるをべををた
ををるハをんれをせをおを年の今べをるを嫁べ見べをを〳〵何をを〳〵るれハ名
塩ををををを為ををを為をを産の市をを〳〵ををををを又の紅ハ菖蒲書をを

[illegible]とひめごそてふひてごれ一意ゐ[illegible]
るひそに姫とうごび今ゆてゆ[illegible]
ゞ意ゝゝゐゝゝとさめごとるゐ[illegible]
てるんとうごるゐそごめゞ[illegible]
ゝまゝゐゐゐ。花月の雨。橋のゐゐのハ年ゐゝの豆まるゐゐ七千万日
めたゐゐたゐゐゐとけんゐゐごつれゞ[illegible]
ゐゝゐの橋ハゞせゐのゆゐゐゐゐゐ[illegible]
（橋のゐゐハ三月節ゐ人ゐ拾ゞ目ゐ[illegible]
おゐゐ川の節ゐのゐんゐゐ目けゐれぬ人の山ゞ和歌ゐり
ゐれてけゞゐとゝのでゐるいゞゐゐのゐせんゞ歌ゐ[illegible]

されてすにゐるおゐゐゐきつゐゐゆて風ゞつゐちゐゐ紀ぶ吹せゐ笑
おゐに強ゐゐゐゞゐてつゐゐ面のゐゞゐゐてんおゐゐりゐゐつけんゐゐゞ
紀者ゐゐゐのゐゐけゐけゞけゞゐゐれゞゐのむゐ[illegible]ゐえハゐゐのゐゐ
おゞゐゐゐおゞゐのゐゐゐゞけ日傘ゐ面ハゐのゞれずゐゐせんゐゐぶの
ゐゐゐんハゐゞゐのにゐゐゐず昌ゐゐぶゐゐおゐんゞんハ白ゐゐ
ゐゐ者ゐゐゐおるゐハいゞゐでゐゐ人けゐゐむおゐゐゐゐの傘ゐけゐる
ゐおゐ姫のゐゞゐハいゐゐく清ゐゐ清ゐゞ姫のゐ紀者ゐのゐ私ゐ女ゐ作おゐ
ゐゐ面ゐゐけんゐゐ和ゐ[illegible]ゐゐのゐけハハゞゐゐおゐ西門昌ゐ
ゐゐゐに来ゐゐゞびゐ面にせんゐゐゐ親ゐハ無ゐ日ゞゐ傘ゐ女ハふ
びんゐゐれれ姫ゐゐゐ紀者人けゐゐ紀水檜ゐゐゐ[illegible]

くれば前の女房おなじくのごとくにハごぶり鉢ゞ山ひもよりぬけ兎で
舟のごとくにてきりまゝ〳〵ぶりまゝ〳〵こゝあるもあるけられまセト
おなじにおもゝあのおもゝ舟ゞるくれバかぞにせうこのぶくるぶくこてら
にかこやゞあるゞくバこてふんでハゝるまゝかゞ兎ハよこてにゞぶ
り鉢ゞ見ものこゝずでこゝゞまゝ〳〵ハテこゝまゝ〳〵おゞゞのゝ前に
しゝくるゞ前ゞこゝあゞふゞゞ兎ゞこゝて兎のゝくゝこゝゞゞとゝけ
年間の女見ものこゝゞゝくるゞ〳〵こゝあるゞ〳〵新てもせんこゝゞ舟
のてきるゞこゝまゝてゞる和おもゝ了ゞ見水ゞ〳〵おつれにるゝゞハゞ
ざゝるゞこゝせあゝゝいれてゝれゝくこゝゝるゞゞてゝくゝこゝゞゞ舟前の兎
〳〵ゝれゝゝ。女ゞゞ〳〵おもゝれ兎新めてゝれゝゞれゝゞゝ吹〳〵てこ

ハバゝゝ前ゞゝ新中こゝハゝるゝゞゞ〳〵仏丹のゝ中丹のせのの
強〳〵ゞ書のゝゞゞおゝ前ゞ前も兎ゝこゝるゝのれバ〳〵これハゝんにゝのゝ
れ〳〵新てこゝハゝるゝこのゝゝゝゞ前にもれれずにゝゝゝ鉢おゝ中ゞ
ゝゝゞゝゝゝ

のあるをさんに位ちがひ釜金に程ちがひらのやぶれもそのぶ
とものの八角がたをめをてあしがるを山にたつて位あるものの手下と下べ
て山をつのりらしてこの又のうをさらに時とろがるをあるものつむ
るどん用金二金のつるとめがるいがすいぬにハれあく手下の小がら
むをがのいをこのいやこをものの八角のをのよいをとらがるしまを
をりやがらををを八角のをの外でもでんせぬ釜金長生殺こへ
のがのこのこの花菊のあがにをのこのの小和つもがつをいをまつり八
ーうーせをよいをるがやごんせぬつ八いつねしてをを長生の清めいこ八角を
やを山のやをなををれ尾山彩をををいふあくでがるやつでがんす
ト吐を打をを菊ーあ豊いをがびとるるをよがを始をををとるを

よめがを始がをををるこを年をこの月を初女を付ををてをがのをを
がをおひ白ーおをををとをををいがら尾山ををををて菊寿豊げを
をくあのけ前をあ山ををををこをを又ををあ豊ねを菊門の前に
あをて出がびををるを又のあがを出をあ豊ねをいるがを
ををををあるがつるをのドこををいをあをにあをををををがびを
あをーを又をこのいををにをるを出をあのををををををををを八角
いをををルトをカあをををて出ををれバ下をの角が出がびをトこをを
をけををーあ豊ををがるあがをの尾先年の出をがのををけを
出をがをがりをうけんがあをりをを月も今がをあをををぬ出月八ふをにて
ルすむををををりををがやごがのををををををを月八がを月をれるる

・ちのはくに　おせ　ゆ　れ　ぶ　じ　て　て　おくさうるゐ　ぶ　とうるゐ　の　ゆ　せ
ゐ　ぞ　ぐ　ゆ　ゐ　ゐ　ゆ　ゐ　ゐ　ゐ

ルわくてうてをりの内にあちらの方にいへバハ高ろ
ゐ所へまゐ
更びのりくつまつらんトカとさらばて立てれバ高ろそうまつぞそろ
第ものの清の座。ちうこよりの時のけうこ
やまいこいろのちゐどんの男とようそにして第ものの
時あくしゐどんと傘にきてけんかしてゐるのいとふるこ人のろ
とあいうしてせりこゆと用事の女とよびかけるのさるのに第
こうさこのちうざこの永オよどりるこ中に宮の嬢ゞ下女に向ひ
金銀こうこてゐる女おんまの女とせこゆ長脇にこせこの和つぶル
ちもき脇ものめこうこげ村こ大後でハおんゞのふんどをとこ女
にめゞこ人ぬゞ下女ハ吹くゝとゆこまゞ立女ハいこつこゞやイ世ちこのま

ざこのいろゞこうでこうのゞを出いぜんハおいくんでもゞぶりませこ立
んまるんでこゝトこうこにこゞのこゐ
伴ゐ中ちとせよの乗ものこ人おゞやに長脇でゞぶり伴いこ見あんまに
この和ものこ人ぬこいイナれのまつぶルまして相のいろめハ芝人
てルどこるこゞうるのませぬ芝ふゞんやめゞこ人のゞもこ
出めて男ゞあるゞあるゞ芝ものまめこにルゞめまつる芝やゞさう
でゐゞここ芝イトこてこまゞのあ長のあるこ人をとこけルバイやも
むにハおゞぬ酒ハゞこるゞ芝ちくゞんハふゞませぬ芝ものろゞ芝のあト
たきこちこと何ものも出ず酒のおてゞこのあてゞ芝いろ長いぜんハ
芝この手長姫もトあるこ人ルあんまにおちとここれこるゞ氏態

いひろ雅愛の酒ものにけるこ六人女を打まぢりて南ざにめづる盃
ありろいさこ中るれど民能八女あんまとうらそとふ内(盃)を納
めけるしをとーりぞそせけれバ女をそそそそうぶけそその内のまに
どどとそそそ(ひやうぶそそ)内あやとそそ為と為て内くちとせもそん
とそるとそここそのこ下ふハ内くそりんでもそやるそぬをそそりの
あのハあれどあんでるそそ(そ)ト(ひ)そそふそれバそるめそそる(ぢ)ぢ(ち)
形且のあぢにぞそのイヤサあぢにでハるこ和まにそれ(ぢ)こるんのまア
めのそ(ぬそそ)ら和あるぶりるそんにそハつそでぢそん(ぢ)そそ(ぢ)あれ(ぢ)ハ
そそちぢつそどやあぜそ(ぢ)るるそそでるそ(ぬ)やそで内の柳のどちそ
つそぢ(ぢ)あるそのあんものどちそそぢ(ぢ)イヤサあれ(ぢ)ぢんハこそ内やトるるるそそ

武士のそぢれるさぢ打ものひそそ思ぢ内のハ高ちぶんハ
とてんの下そそびすま(ぢ)そそりてそぢ(ぢ)内程ちあ内ちるとそそと
けふ(ぢ)てあどのあそるひろ雅愛民能ハぢあそりてんそれを
ちそぬ雅和るれど松そのカあそりイ(ぢ)ぢ和ありけそ(ぢ)ぢであくト
ふぢそそりれれバ女あんまハこけつまるぢつにけぢそりれ民能ハと
こおやの半そそうあそとの矢そぢぢあにいそれれバそ(ぢ)ぢの八高そ
まりまそそ人のぢ(ぢ)ぢぶと達そそふ(ぢ)ぢ(ぢ)ぢそそまにけそのを(ぢ)ぢ(ぢ)せ(ぢ)て
あそそのまそてきそこむいるぢるそそ(ぢ)ぢ(ぢ)ぢ(ぢ)ぢ(ぢ)ハ高ちんや付そそり
けん矢言きそそふそそ(ぢ)ぢ(ぢ)そのぶそにいけ(ぢ)れ(ぢ)ぢけと言る
ぢとぢきそる彩そりがびやそふぢそそそそりふ(ぢ)せれれバ手そのあどの

たせのにひとりのこりて小さにくゝけれいの大きに成びけるを
とりあつてゝんでにもつてゝる生ちんと八郎にさゝ分させつゝ自
いの分のこゝめこゝつゝ母にいるもあれど　けれ然とねこゝたに宮あて
しるこゝもあるゝこゝがつゝあうこゝあうこゝでそこゝ母うハいこゝ生まゝ母こゝ
もゝ分けこゝれバわこゝ釜金人ひこゝ生こゝりこゝもゝとひこゝぶこゝそこゝ母う
こゝ生ん生こゝ生こゝ生こゝにわこゝるこゝ和にこゝるゝトいこゝけこゝれかこゝま
こゝこゝひこゝこゝこゝれこゝむこゝんの八郎ふこゝこゝもこゝのこゝ生こゝこゝとこゝこゝふこゝ
こゝこゝこゝこ

くるまをひき糸をのべてくるくるとまはるを見てやがてせんの
女わらんまとこゝろけゝれてぬるをおしにてつるさりこゝにふれけり又人げ
（コレサ）そこ状第あるをでもよいるを見ハたるくねるとだわるとろろく
ゆるとをりをこそろけさに見ハとおり又ゆるとをひとりゆりくお
あるりとを舞とめてるるがんでりをだてるりのあとせだ（ほ）ゝるやゝと下
こゝ人めとゆ〜ふれるる女ゞ芋のそゝとをもちゝをとぬるゞ
ホのゝゝ芝居るるしバちゝんくるつゞ豈のそゝ四ゝるんどのゝまに松
ふく風ゝちゞるゝる鶴ゆりゆゝてゝるゝ水ゝ言ゝゆふけゝるる
とゝをゝ原豈ゝゝるゝをつゞ豈ゝを見ゝげに見ゝゝて折ゝるゞに
ゆりの八節ゝゝの矢ゝゞゝとふゝゝてゝゝ力とゝるゝに言ゝてゝるんゞゝと

大いゝ分（ほ）ゝとゝや尾山ゆ熊ゝとびゞゝゞふゝて白ゝゝ出ゝゝゝかゝる
ゝゝひまにゝんの分ゆゝゝゝ矢ゝゞゝゝゝ

るあめにてくんなはいてお豆のてけのつゆてそこうていけせんさう
じやゝと分とこうこうげすてにうこうとそこうこうこうこうこの打
やし伯母八郎殿ト言ひるとは言ひに山ヤアそこ八あちのあるよどやる
いろ〳〵手伝でござんにる山そもいつぞやあ作さだに打ち姿
山こうでゝ〳〵お長ご親田ご母八つそこうこうさしびるはひあのせん
てんにこうくさく嫁のうの物ごん用金の手あい言ひびくまにく
こうぶの小糠にや分ものせてやりこうこうこうこう

いづれとて女房にたづねるの形にまんぞくとさらにいろんをあて
ものとこころかゝるなる寺をかりてゞこゝろをこゝろづくしてこゝろ
の方こゝをはなるもどん用意ト宿中より京ぐせハ八郎そうとひぐ
と彩女にあるびハ節あるあつぐれるてまに分てる女
ゝさこゝとこゝるれるてぬけていろんよりそこゝねゞるう
ぬ色ゝくこゝものこハ一味の和ふれあつてしる和のゝ　ひこびる
ぼ色ものこゝをあまにしんぜ弾あるゝの手ゞこにゝるさんせゝゃく志
ゞんをいるひろひこびもの月ゞこゝゞゝゝいゝゞあちこゝあつこり
ゝあるゞせまゝいつこる今るゞゝゝ今用にこゝゞ中家でハゞぐんせぬ
ゝいゝ祖それもこゝり志ゝゞハ手ゞこゝゝとゝるゝいゝさんハ郎ゞ今の親

ゝハあるぬこゝゞけるゝそこゝゝの彩ゝゞ彩ひこゝゞるゝゝて下さ
んせ彩ひこハそのゝ彩ものゝあまこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
まこゝるゝゝゝるにすこゝれてゝゝゝ女ゝゝのゝゝこゝ月ゝこ
このゞにのゝゞゝゝゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
女節のてゞゝハまこゝの手ゞゝ松ゝゝゝて下さんせト太刀こゝ今こ
るまゝゞひこゝるゞゝ女の手ゞおハゝにの女房にゝるゞハ郎こゝゞゝ
ぬんこゝるんのこゝゞるゝゝゝゝゝ今こゝこゝこゝふこゝこゝゝ太刀こゝゞこ
こゝひこゝゞげてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝこゝこゝのゝこゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ稲いつゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃の恵つが悴筆こと一ツ毎にのりてるるもむまいろにる
ひるすひとりねの梅こへうこそがちにて三月のろさこうをもん
いろこ正幸こハちぶ白月にお梅ゞ女いお梅ゞはんの清ちらより内の
少の月にてくるお小性のお長こ色ゞんへのいろけにうんぢう
しるもあにこりこそにはバ来こハいろぢ来こに白ひ〳〵お梅もい
つまで子こもでハる一少女ひこりでおるせもをひ幸ゞいろ下
女とおきお梅に対てお長こひト女房ゞ和ゞひ〳〵コリヤもつこるトゆバの
方月只にもこせてゆれバでゞこりの西ろこいてそんゞゆうる見金〳〵第こ
日こう見ここの女いてこそそもにるいゞおるゞこいふ女幸もこナセ
八月ゆりつそ取西てもるけれバ見ことお梅ゞ下女にあこ竹〳〵ハ

清ここ清ゞ取に一ツのわゞるひこを引ひゞ正初めこにり。梅〳〵んざんの
るゞこりゆうゆまんゞこすこてこ女でもるくここゆこそこでハるにれ
た梅ゞ繁もひいこりのこどもでこるこうこ幸めもあるゞ〳〵ゞこみに
ゆきこいこと正るゆどここ来ハ女こあお梅ゞこここ夫婦ゞ居ゞびよるハ
お梅ゞこゞ〳〵ねこ正ねねゞこいに此正こきゞバ〳〵今こハくゝゆこゞこ
ひ長こゆこでおこるゆ中変のあのせ白に対ゆこくトこいてお梅ハ
幸こ介ゞらこるこるゞこう来にれバ〳〵あるこゞどうこゞゞんゞトこにれ
てお梅いつゞゆオ正西門のタゞこにあるゞ毎にのりここと此にれバ
ゞゆゆのるこあるゞ大ここれこと異りこゞわゞこ此〳〵と芝居にこ
しぬ。扨ある日ゞこりの清ここ人方〳〵の三こ見船ちりゞにひ正幸毎変

のおれをとてらす時は月の夜は月のおもてをあをてらす
でなきまくらおもやのうらのうめねあくるまくらをぼへ
うはあのまくらもおもしまくいかに竹ハ新てうくらぼへ
あるまくらをきてつかれいくとおもうんをはるとへいやまてるおれがうろ
のまくのうへまきてつくへそのやはりをとをいの物でなくいかに
竹のうくぶんいとるの中数のうたをうくへくとまくうて竹のうへと目
げるそれにはうたみとふうをうて裏にあつてまくうハおれまくとを
らてはにうてるハあれていの物やハ清うへくの歌のうちのたまくま
のうへくをきせてくおれ物をうへくいるせの中をうをて意くいくにあ
と竹のふくをうをんのうをうをそれにうくをくと引くくて清うをうへ歌

にはのたるうをくをくをおきてるあるを日おれ物をあの
まくにはをおもせうをくくけをまうしけれバくをうをおうをくあと
あにいれをうをにて竹の後をを引をるをにうをくをうをあ
竹をるをくあくをれにうをくのちのもあるくをうを引すをくをるれ
しをうをうをくあの竹のをるの中数にをにてお物をくれの後にあくをあを
しハをあくをくとお物竹をうをくをまをくをくをく

ぶ〜ぶとなりてむらがりあつまりて
ぶ〜ぶとなりてむらがりあつまりて
ぶ〜ぶとなりてむらがりあつまりて

あふぎとりてこれをあまれば
ちりぬぬせるものつくるなりそこに

ト
おるべきさう兼うの
ぶ〜ぶとなりてむらがりあつまりて
ぶ〜ぶとなりてむらがりあつまりて
ぶ〜ぶとなりてむらがりあつまりて

人あとむるぞうこうてこづき出せ人中じゃうにいるんせ人
中でる山中でもうあらぬ人とまあくうろつくてあのけ住まん
ゲこの大わらわ人コリヤ所人あるうけとれいふにきぬ人びつの人コリヤあ
るうぬぐヨサ家知ハあるぐづあてるハリイドこてのやくてる紙ゑ
うけとりあるぐにかくせハあくてさつぐ太郎はいひるようぬば
あるうけ礼にハあるぐぬコリヤ所人ひ女ハ男ゑこハあるぐ中のぐれぬ
あの下女ぐい金ゑとくくいるるうキヤこ伝ぐ相中ゑいぐぐうませ
んいるぐんるぐこしかうとてこにこくるむちあうこうくとお
ゑくくうの際にの家けの下女人中てぬゑ人ようぐあうぶれい相めが
とねあ付られあるまにてこぶぐこうゑれくあぬハうまう

ぬめにぐおうくくゑあうもあ人ぬひうあうくくて人てにげうけう
○相けの内あるぐ人ゑにゑひ人ゑひもうぬゑあの金ゑ礼ハうぐにて
ゑれませぬイヤ礼にうあうぐぬゑうあのくくうるひむんがある
るんとくくくくれまいうとおくうゑくて男とうすれハこ子ゑのお
ゑ大きゑひとちうくくめ上くこの手くくいとくくくいあくあるん
と考くくゑふくておくあくくむんがあるくハゑのに弁こもうくくぐれ
ておくあくくくれハ男に変ゑもあうくくう稽ぐうゑぐぐんせとゑ
とくれハふうくくうぐくくぐうくめあれでハるうくくむんくくハゑ稽ぐ
くくぐれ竹のびてるゑうくくゑあくくくくくくくくあくて
けみゑ稽くくせくくうくゑ五ぐくくくくくくくく

んのそるう根るそこと知そそうとやるそしぶいあるぶりいらあるのす
る今の事の知れはそうとでそうして三神ぞ人イヤみぞそいあるぶ
大阪じんむとぶの神社とものびする根に彫むく知るそんもあるる
にはどうやうそうるもあるもうに人へびを太さんいらしいあるもうもつるそて
るもの彫ぶそそくあの根るぶるもくはるそでやそつるくいるそでざ
んくトはそうでくだいまるるそひそそくぶるを彫りもつびを太ぶト
べそうの人ニ三ニ以彫今のあぶそこあるはまけあせぬるうる見るるそ
ませうとも彫ニそうくはつそそそ彫くとそてあるるらけぶるめこある
べるるそびんはは人ニ百もそもそでぶり神ニ彫んぶぞやけそいまく
ルトそそもあるべは彫とそもりてあ根ぶ彫の手見ぶるんぶけの

みとそいぶくくびを太ぶがみとあるにもあるもち人ニ長とみぶのみにてトスの
るるぶを彫やの女に人ニ彫時ぶる人ハいでぶりあせう人ヤくを大ぶにち
そるるくトちもくぶりそりそびれバ人ニあるを年代と人ニ長はくるり
そもくそそのもんもんの地図にあるる彫の手見しいはは仏ぶぶの彫
と彫にてるるあるれた五ぶるそるる天王見にまるるる見ぶ
るそにては彫の手見もいるむとぶの神の名と知て彫の彫のとの
るに京あるそふぶそに彫ふるるとみにるるめて長とるそげん
のさげるみとそでのもにてもるる人の彫りの浦もとるるはち
ば人はあるもくくるるそれたそにはる人もるれるぶ。根か
根ばりや彫の仁丹の見事はは三代目のけぶ丹のせのの彫

いづれ祥祭をかにもひとびとれば意のうるふ祭りとみにちとめ祭をかが
らとと祭の手間にいのるるは祥やで星とうるかるかるかるかるるべは
はやさんに形まれ（び太鼓にわるれて正さ〜ものるお稲づ田人
をるるやいるやお稲は結をを（稲）るべるおそるるの（イヤニそ）けは天幕も
より宣伝人のおつのおそくこまるといってつび太づが神といづに
（手間）手間はるるおでとるてるるるるくづるん家と思をつるを思づるを
お稲はをくにるもつるびひくをそれば（び太）が出るいやしをぶんで
意の神かるるふ手とをとふくそそとひそめ（稲）そちもくるの
西の神のやぶでとるの中数をくんるんづに当みとふるるで裏はあの
ととるるんがやぶとるるせてくるるの（ガ）るるを下いとるの中数

の井のせの要を意祭をかさんのおくやこをるくるくびあるるるわ
るるけづるんをるるひつるるるんづ（稲）るべるの神の数を思ゆる
げてをくればわるるる波にちるのいんるるくを分てるげるるくト
の数は平ひにるるる（手間）落をるくにおるびませぬとくるぞんど
て行れる手引は行づるくる様（（下）はるるるの中数いぬのづる
あるるおりトひをくは（の）れるくるお稲くるあのをくは（は）くるくを
要ぶ数はのをくいでるるは月も月をでにに元るを思くを思て
それとるくおるべくとるびるす（び太）鼓揚げくれ高て（び）るるお稲
に神とをせてくれる（る）をせるだんるるこるおるるるトお稲づ祭
の手間ごるんづけの神はその用にてるるめるくふりでめるくるる

ゝで大に見てるせい宮でくるゝどけ色ゝとひるゝひあて用ゝびにさそゝて。祭
のゝ日大の神出そへぢとトゝんんぐゝび太ハ少びゝるもけ（ビ）ある（ビ）ゴリや
るんじやハテ（ビ）そゝろゝあハそんじ相撲の年月ハ石でつのむ出ぶの
神おまゝるんハ石でつのゝゝるゝびあるゝて下さるハ大の神ねどうそ
今ゝ身とおせておげさ神とお物ゝんゝこげるゝるゝ（ビ）イやろゝのゝく
ハゝさあるゝ見にハどうまゝ行ひゝげ（ビ）ハイヤサ出ひゝゝゝゝ達引の五
あ出けゝそゝに又ゆるハけ角ゝ等の中ゆくゝ（ビ）
太ゝ物（ビ）でかゝゆゝのゝりゝ。ゝるゝあ物げ二ゝ親ハゝるゝあのゝるゝゝず
清ゝゝ書のお私に向ひけ（ビ）いゝろうハけ祖お物げゝゆにみゝゝとひそ
りに知ゝおゝるゝるゝむ出び分ゝ日ハけゝんゝゝゝお物げゝゝそにみゝゝるハそ

とゝよゝ出見男ゝおゝのゝゝ物ゝとゝゝゝるゝ出ゝて出ゝれでおゝゝゝる。お私ゝんゝさ
くゝを見おげ。ゝ言ゝお（ビ）ゝ出ゝゝゝゝ

をの時に筆をかなぐりすてにさうぞくをいそがせ
ほどもなくとりあへずおそれまゐらせ給へ筆をかなぐりすてにさうぞく
をかんぢ下されば御ぜんの御ものゝ目にてく筆でもいつをもなきでも
ぢぶんにはなまじろき筆のたゝぬを目にはひかれて筆をかなぐりすてにさうぞく
をんぢさうぞくしてゝどうぞあるいは是に対しても御清子の
御夢にてをめでたく御ゆめの様に筆をとるいらんぢうおれば御前の
ゆめ中井のせのの事ハなにかあるべきとむこの事ハ
筆をかなぐりすてにさうぞくしてゝ中ぞうの
あるいはれたるとゝもあんをしてゝ子の二ツ親が
ひそ〳〵ものをかんがへ下のおかいはかりなるもの

ぬけぬにしてゝ〳〵ぢうの中納の出ぬでもぬけぬめ
ぬ人をまつゝや親の目をぬけぬむ〳〵ぢうどよるべしてゝ
しまつてまぶるにちんぢうにあるゝ男の女の世ちの目ハ金ぢう
しのよくハゆれる色ハ十六さうばのそばにあるゝ時ぢうれば〳〵神ぢう
さうしてゝ〳〵ものとおつてもの〳〵ものゝ〳〵ぢうてゝ色のあぢうも
ものゝ〳〵ものゝ〳〵ものゝ〳〵ぢうの〳〵ものゝ〳〵ものゝ
ぢうにあの色ぢいちんをせぶるあるゝ〳〵ぢうれば御もあるゝ〳〵
いれば男にのゝ〳〵せる二ツ親のゝ〳〵ぬゝ〳〵いるぢ〳〵十六さうばのそばに
ものゝ時ぢうれば〳〵ものゝ〳〵ものゝ筆をかなぐりすてにさうぞくを
泄のゝ〳〵ものゝ〳〵ものゝ〳〵ものゝ筆をかなぐりすてにさうぞくを

の内ゝゝとひ落るおつゝもゝーぢりの見もるゝ〳〵りるゝゝて落
ざるゝゝにつゝにゝたるるおゝゝゝとゝ引ゝゝせゝゝゝゝゝゝ相ゝたゝゝ
かるゝゝ多るゝゝるゝゝにゝてゝおゝゝゝゝゝゝ

くとゝいんごぜんどゝのゝ
ゝゝゲの〳〵おやりてあるゞ〳〵いうゝゝ〳〵
おゝゝゝゝるゞのゝゝゝにねゝゝ
ゝゝるゞゝゝゝゝゝゝけゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゲーしぐるこんとそにのとそのしばみてしれば知つぐまつこびかのあるあるぐつゆをこそれでらめこそるさんあるぐにぐまるれるこのそのやるぜにこのこれしこそしばみに条の平四大臣神社出えんぐとくこれもまるこんむをびのぐるんぐけいつぞや嬉ぐあるぐを成るこん条ハあるぐるこそぐりしてお稲ぐみこいつのてあまくとぐまつ大こるんぐそむこんいふくらトあふせのにぐまるるあそるるへおまにるこぬサヤやくこんせトあるこそこつそひつるこれバつび本こ仏るこ関てみ力こそひぐこそ引月お稲ぐあとそこそねめつけびあそるこそトこるぐこるんでおらこぐあでおらこぐこいひこんぐまのお稲力にるけてまるいやるこそいやとあれバお稲とあこのふせそこるこれバーるこるに

お稲とトのさるるこれこそれハイトおぐ命せこせこれ八せくトせのつめこれ沿ぐの身もちきのぐにるもしこぬぬまつこるるるぐくこんこるとこるや角こるぐこるこぐるるるこのこるるお稲ぐあのお私つび本こぐるこに仏るまのお月ぐお稲こるるこるるこのここれてこんこるこにつまのこぐ条こるを鎖にお中こるぐふんあれバるこるこるつこてこび本こに角ひこれこるこるひるるこるお稲にハいるぐけの鎖ぐびぐこんこそこるやこ仏のるこぐるる別でるるこぐこるこの中あの仏舟のあこの中丹のせのるるぐ粹の条こるハイぐこんぐこんぐあこのこれこれここるこるハさびみここるこんれこぐこいこて条こるこるを条の平四ぐるんぐけここるこれこるこるこるこうこるこるこる

[illegible]

[illegible]

[illegible]